

学びの音

城下小学校 校長室だより

令和5年8月23日

「探究」する

令和5年度に皆さんと一緒に大切にしたいこと、「自分で考え、自分で行動すること」そして、「関わり感じること」、このことについて1学期はどのような「私」であったでしょうか。そして2学期、どのような「私」でありたいでしょうか。

「廊下を走ってはいけません」「廊下を走らないでください」…

誰かに言われたり与えられたりすることをこなしているだけでは、時としてその場しのぎの行動となり、「確かな力」とはなりません。ましてや自分で考え自分で行動する「私」からは遠いものとなってしまいます。そうではなく、自分で考え行動してほしいと思います。そのために、なぜそのことが必要なのか、なぜそうすべきなのか、そうすることの意味を考えていきましょう。何のために無言で清掃をするのか、なぜ「ちくちく言葉」でなく「ふわふわ言葉を使うのか」。なぜ廊下を走らずに落ち着いて行動するのか。「なぜ…」このことを考えた時、きっと自分で考え行動する「私」になっていくものと思います。そして何より、自分の学びたいことを、とことん学びましょう。

さて、今日は皆さんと「探究する」ということについて考えてみたいと思います。「探究」という言葉を聞いたことがありますか？「探究」という言葉を辞書で調べると、「物事の真相・価値・在り方などを深く考えて、すじ道をたどって明らかにすること」「思考によって論証したり問題解決を図ったりすること」とあります。

3年生以上の皆さんは、夏休みに一人一研究に挑戦した人が多いと思います。自然のことや社会のこと、自分が感じた「不思議」や自分が「明らかにしたいこと」について、実験したり観察したり、インタビューしたり調べたり。そのことを基に考察し「不思議」の真相を明らかにしていったと思います。まさに探究そのものですね。

毎日の学習も、同じことが言えると思います。総合的な学習の時間や生活科の時間において、自分や自分たちの願いに対し、テーマや問いをもって探究していくこともあるでしょう。それだけでなく、理科や社会科の時間はもちろん、算数や国語の時間においても。「どうやったらサッカーのゴールを決められるだろう」「地球温暖化を止めるにはどうしたらいいだろう」「繰り上がりのあるたし算はどのように計算したらいいだろう」「本当の自由とは何だろう」など等。

与えられたことをこなすのではなく、自分で不思議に思ったこと、考えたいことをとことん探究していきましょう。

